

令和 8 年度

新庄北小学校いじめ防止基本方針

富山市立新庄北小学校（ 1 1 ）

目 次

1 新庄北小学校いじめ防止基本方針について	
(1) 目的	1
(2) 基本理念	1
2 本校のいじめの実態と課題について	
(1) 本校の実態	1
(2) 本校の課題	1
3 いじめ問題への対応について	
(1) いじめの防止のための取組	2
(2) いじめの早期発見のための取組	2
(3) いじめが起きたときの対応	3
4 重大事態への対処について	
(1) 重大事態とは	8
(2) 重大事態の対応についての留意事項	8
5 重大ないじめ事案等における警察との連携について	
(1) 警察との連携とは	8
(2) 被害児童生徒への支援及び加害児童生徒に対する指導・支援について	8

1 新庄北小学校いじめ防止基本方針について

(1) 目的

いじめは、いじめを受けた子供の教育を受ける権利を著しく侵害し、その心身の健全な成長や人格の形成に重大な影響を与えるだけでなく、生命又は身体に重大な危険を生じさせるおそれがあります。

富山市立新庄北小学校は、学校や家庭、地域が連携し、いじめ問題の克服に向けて取り組むため、いじめ防止対策推進法（平成25年法律第71号。以下「法」という。）第13条の規定に基づいて、いじめの防止やいじめの早期発見、いじめへの対処のための対策を総合的かつ効果的に推進するために「新庄北小学校いじめ防止基本方針」を策定しました。

(2) 基本理念

いじめの防止等の対策はいじめが全ての子供に関わる問題であることから、子供が安心して学習や活動に取り組むことができるように、学校の内外を問わずいじめがなくなることを目指して行うことが重要です。

また、いじめの防止等の対策は、いじめがいじめられた子供の心身に深刻な影響を及ぼし、取り返しのつかない状況も生み出す行為であることについて子供が十分に理解できるように行うことが必要です。

加えて、いじめの防止等の対策は、市、学校、家庭、地域住民だけでなく、国や県、その他の関係者、警察を含む関係機関がいじめ問題の克服を目指し、連携して取り組むことが大切です。

2 本校のいじめの実態と課題について

① 本校の実態

① 昨年度に本校で発生したいじめでは、相手の自尊心を傷付ける不用意な言動による問題行動が多く見受けられました。友達を叩く、蹴る等といった暴力を振るったといった事案も発生しました。また、自分の感情が抑えられずに友達や教師に暴言や暴力をふるうという事案もありました。高学年においては、SNSを介して中傷するといったトラブルが発生しました。

(2) 本校の課題

① 子供たちは安易な気持ちで、相手の自尊心を傷付ける言動をし、いじめへと発展している事案が見受けられます。普段から言語環境やけじめのある生活に留意した教育活動に努めていかなければなりません。

② 昨年度は複数の問題行動が認知されました。いじめ等の問題が発生する可能性は全ての学年においてあると考えられます。そのため、全学年の児童を対象に問題を未然に防止する指導の充実を努める必要があります。

③ ネット上に不適切な書き込みや画像、動画を投稿するいじめの発生が懸念されます。低学年から系統的に指導を行うとともに、上学年を中心にネットモラルに関する指導を、具体的な事例を挙げて行う必要があります。

3 いじめ問題への対応について

(1) いじめの防止のための取組

- ① 全ての教育活動を通して、「自分の大切さとともに、他人の大切さを認める」態度を育てるとともに、子供だけでなく保護者も含めて「いじめは人間として絶対に許されない」という学校風土づくりに努めます。
- ② 道徳教育や人権教育を充実したり、読書活動・体験活動等、幅広く体験的に学ぶ機会を設けたりすることで、子供の社会性を育み、いじめをしない、させない、許さない態度の育成に努めます。
- ③ 一人一人を大切にしたい分かりやすい授業づくりに努め、一人一人が活躍できる集団づくりを進めます。
- ④ 子供がいじめの問題について学び、子供自らがいじめの防止を訴えるような取組（児童会によるいじめ撲滅のための取組や相談箱の設置等）を推進します。
- ⑤ いじめにつながりやすい感情を抑えるために、学校の教育活動全体を通して、自己有用感や自己肯定感を高められるよう努めます。
- ⑥ いじめの内容や指導上の留意点等について、平素から教職員全員で共通理解を図り、未然防止に取り組みます。
- ⑦ いじめ問題に関する年間指導計画を作成し、いじめの未然防止のための定期的なアンケートや教職員研修を実施するとともに、随時、計画の見直しを図り、よりよい取組となるよう改善に努めます。

※ 参照 P. 7 【表2 いじめ問題への取組の年間指導計画】

(2) いじめの早期発見のための取組

- ① 休み時間や放課後の子供の様子、日記等での子供との日常のやりとり、個人面談や家庭訪問等を通して、アンテナを高くして子供たちを見守ります。
- ② ささいな子供同士のトラブルであってもいじめに発展する可能性があるかと捉え、学年主任に必ず報告し、相談します。深刻な状況の場合は速やかに教職員全体で共有し、解消に向け、迅速に取り組みます。
- ③ 定期的なアンケート調査や教育相談を実施し、いじめの実態把握に努め、子供が日頃からいじめを訴えやすい雰囲気づくりに努めます。
- ④ 子供や保護者、教職員が気軽に相談できるよう体制を整備し、保健室や校内サポートルーム、相談室（スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー）等の窓口について広く周知するよう努めます。

(3) いじめが起きたときの対応

- ① いじめと疑われる行為を発見した場合、その場でその行為を止めます。
- ② 子供や保護者からいじめの相談や訴えがあった場合には、ささいな兆候であっても、丁寧に対応し、いじめられた子供やいじめを知らせてきた子供の安全を確保します。
- ③ いじめを発見したり、通報を受けたりしたときは、校内の「いじめ対策委員会」で直ちに情報を共有し、組織的に対応します。

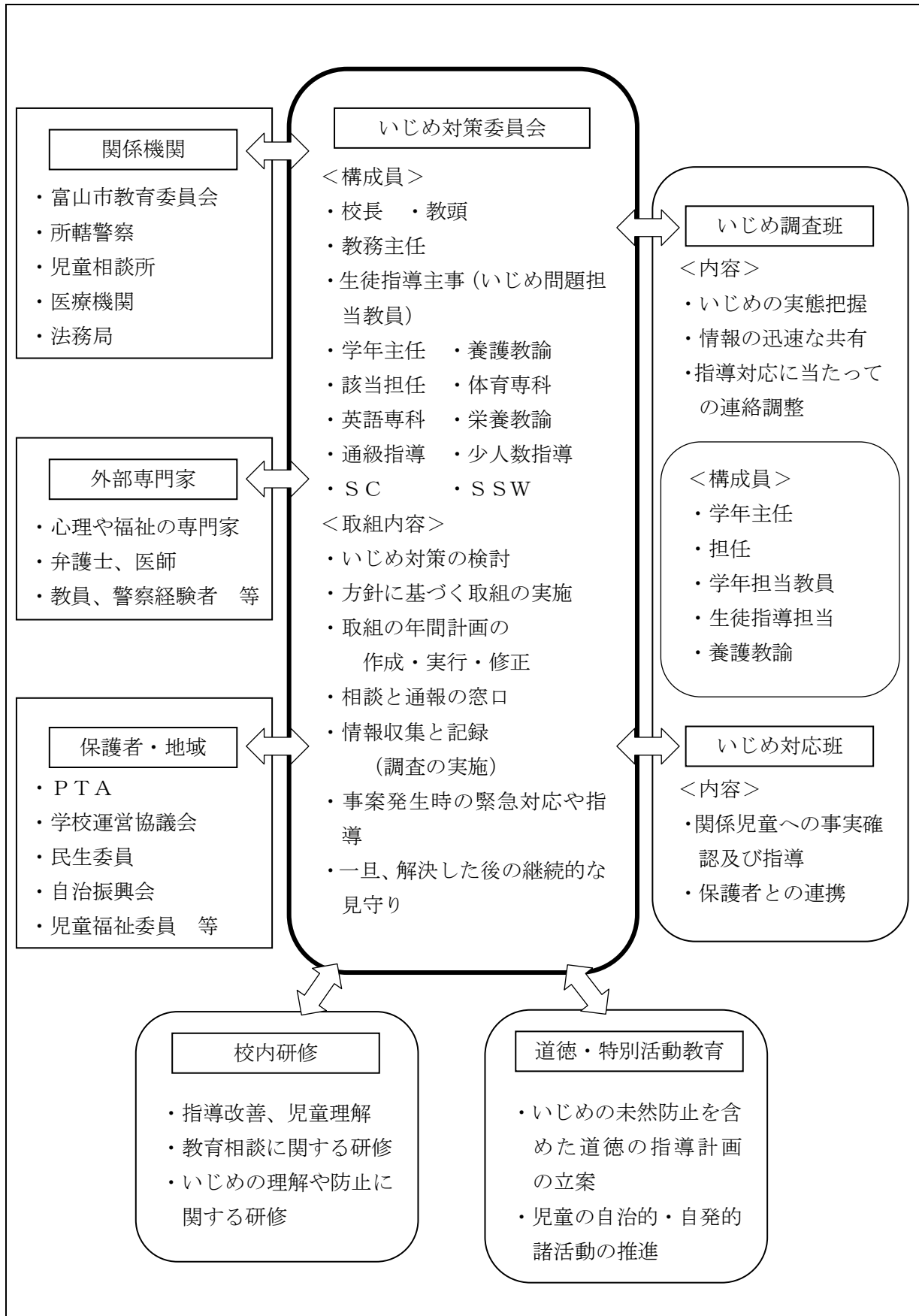
※ 参照① P. 4 【図1 学校におけるいじめの防止等の対策のための組織】

② P. 6 【図2 いじめが起こった場合の組織的対応の流れ】

- ④ 速やかにいじめの事実の有無の確認をし、結果は、市教育委員会に報告し、いじめられた子供といじめた子供それぞれの保護者に連絡します。
- ⑤ 犯罪行為を伴うもの等、学校や市教育委員会で解決が困難な場合には、所轄警察署と相談をして対応します。
- ⑥ いじめられた子供とその保護者へは次のような支援を行います。
 - ・必ず身の安全を守ることや秘密を守ることがを伝え、複数の教職員で見守りを行うなどし、いじめられた子供の安全を確保します。
 - ・必要に応じ、いじめた子供を別室で指導すること等で、いじめられた子供が落ち着いて教育を受けられるようにします。
 - ・状況に応じて心理や福祉等の専門家、教員経験者、警察官経験者等、外部専門家の協力を得て、取り組みます。
- ⑦ いじめた子供とその保護者へは次のように指導・助言を行います。
 - ・複数の教職員が連携し、必要に応じて心理や福祉等の専門家、教員、警察官経験者等、外部専門家の協力を得て、いじめの行為をやめさせ、再発防止に努めます。
 - ・保護者の理解を得て、保護者と連携して対応を行えるよう協力を求めるとともに、保護者に対する継続的な助言を行います。
 - ・いじめた子供へは、いじめは生命や身体又は財産を脅かす行為であることを理解させ、自らの行為の責任を自覚させる指導を行います。
 - ・いじめの背景にも目を向け、いじめた子供のプライバシーには十分に留意した対応を行います。
 - ・警察と連携した指導については、教育的配慮に十分に留意し、いじめた子供の健全な成長を促すことを目的に行います。
 - ・いじめが起きた集団の子供に対しては、自分の問題としてとらえさせるとともに、その中で同調していた子供に対しては、同調はいじめに加担することであることを理解させ、いじめを根絶しようとする態度を育てます。
- ⑧ 謝罪で解決したものとはせず、当事者同士や周りの子供との関係が修復し集団が望ましい状態を取り戻すまで指導を継続し、安定した状態になっても見守りを続けます。
- ⑨ ネット上の不適切な書き込み等については、直ちに削除する対応の指導や、必要に応じて法務局又は地方法務局の協力を得て、プロバイダに対して速やかに削除を求める対応を指導します。
- ⑩ ネット上の人権を侵害する情報に関する相談の受付等、関係機関の取組について周知します。
- ⑪ パスワード付きサイトやSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）、携帯電話のメールを利用したいじめの対策として、保護者と連携しながら、学校における情報モラル教育の充実に努めます。
- ⑫ いじめが一旦、解決したと思われる場合でも、十分な注意を払い、必要な支援を継続していきます。

【図1 学校におけるいじめの防止等の対策のための組織】

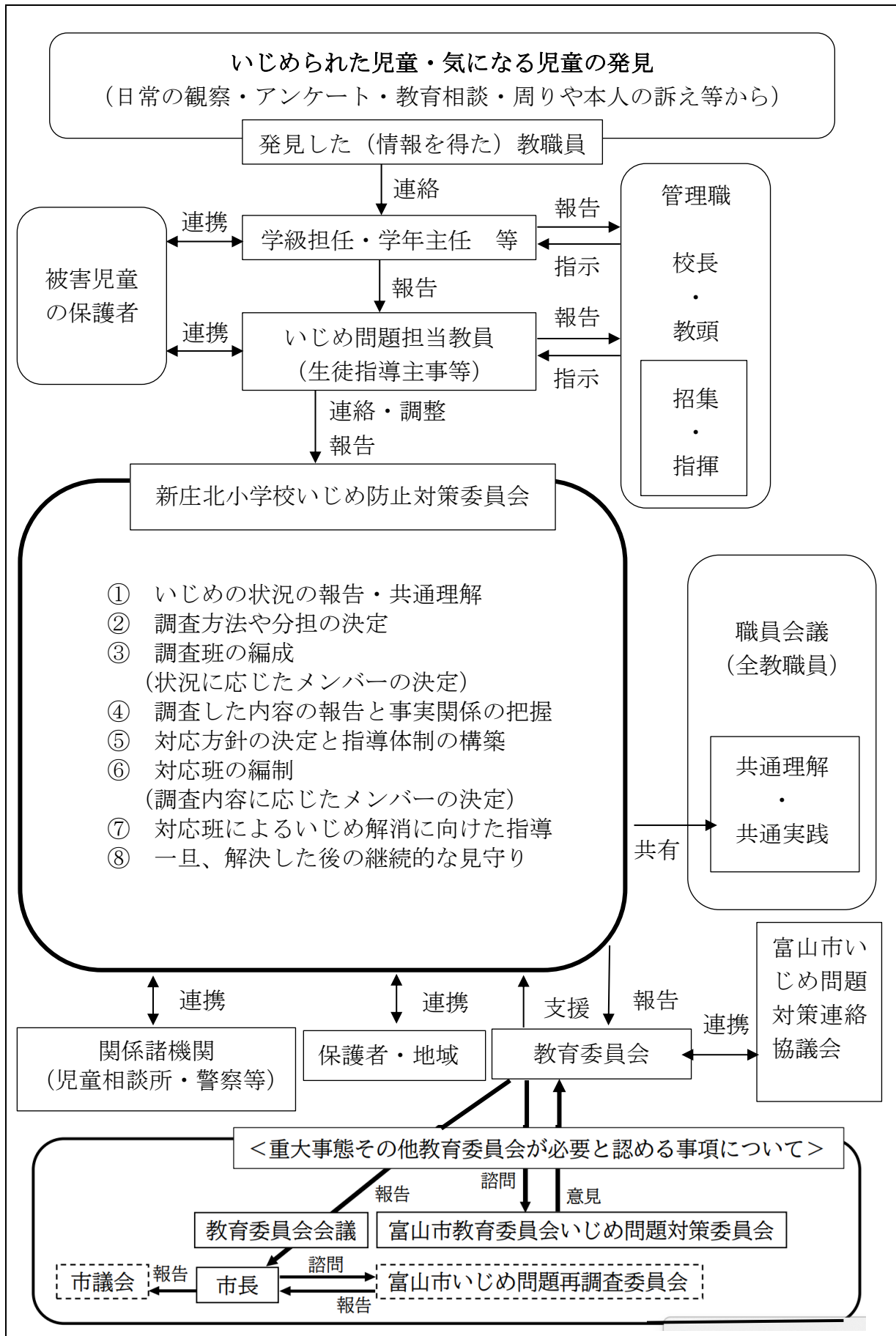
(法第22条に基づく組織 <必置>)



【表 1 校内いじめ対策委員会】

役 職		氏 名	分担 1	分担 2	備 考
校長		豊田 瑞穂	総 括		
教頭		吉尾 真智子	調査・対応統括		
教務主任		谷口 貴子・西田 陽介	対応班		
生徒指導主事		小倉 祐介	調査班		
学級担任	1年	畑岸 真紀・館森 沙和	調査班	対応班	
	2年	小倉 祐介・飯野 涼河 宇尾 真由			
	3年	松原 玄尚・長森 絵梨加 戸嶋 玲歌			
	4年	針山 友和・黒田 明里 廣野 かおり			
	5年	海下 浩慶・岡田 真結 田中 美玖			
	6年	桶本 佳江・毛利 廉 竹内 拓哉			
	特支	橋場 映子・朝日 美奈 後呂 直輝・林 明子 大久保 里奈・水橋 透			
養護教諭		仲井 久美子	調査班		
栄養教諭		清水 雅恵	調査班		
通級指導		中村 積子・島崎 恵子	調査班		
少人数指導		小堀 雅行・松下 友哉	調査班		
体育専科		山本 剛	調査班		
英語専科		松田 潤子	調査班		

【図2 いじめが起こった場合の組織的対応の流れ】



【表2 いじめ問題への取組の年間指導計画】

	4月	5月	6月	7月	8月		
校内委員会等	← 事案発生時、緊急いじめ対策委員会の実施 →						
	いじめ対策委員会実施① ・指導方針 ・指導計画等 ※職員会議で共通理解		(PTA総会)及び学年懇談会での保護者啓発		いじめ問題に関する職員研修会(適宜)		
	職員会議						
未然防止への取組	← ① 道徳教育の充実 →						
	← ② 学級・学年づくり 人間関係づくり (運動会・宿泊学習等) →						
				児童会による未然防止に向けた自治的活動			
早期発見への取組			教育相談週間				
	<5・6月> 人権意識チェック表、生活振り返りカード(児童) <7月> 教育相談カード						
	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
校内委員会等	← 事案発生時、緊急いじめ対策委員会の実施 →						
	いじめ対策委員会実施② ・情報共有 ・2・3学期の指導計画の確認		いじめ問題に関する職員研修会(適宜)			いじめ対策委員会実施③ ・本年度のまとめ ・指導計画の見直し	
未然防止への取組	← ① 道徳教育の充実 →						
	← ② 学級・学年づくり 人間関係づくり (宿泊学習・学習発表会等) →						
			児童会による「人権週間」		道徳・特別活動計画へ生かす		
早期発見への取組	<学期始め>実態把握調査心のアンケート(児童)		教育相談週間			<学期始め>実態把握調査心のアンケート(児童)	
	<9・10・11・2月> 人権意識チェック表、生活振り返りカード(児童) <12・3月> 教育相談カード						

4 重大事態への対応について

(1) 重大事態とは

- ・「生命、心身又は財産に重大な被害が生じた疑いがあると認めるとき」
(児童が自殺を企図した場合等)
 - ・「相当の期間学校を欠席することを余儀なくされている疑いがあると認めるとき」
(年間30日を目安として、一定期間連続して欠席しているような場合)
- ※「児童や保護者からいじめられて重大事態に至ったという申し出があったとき」

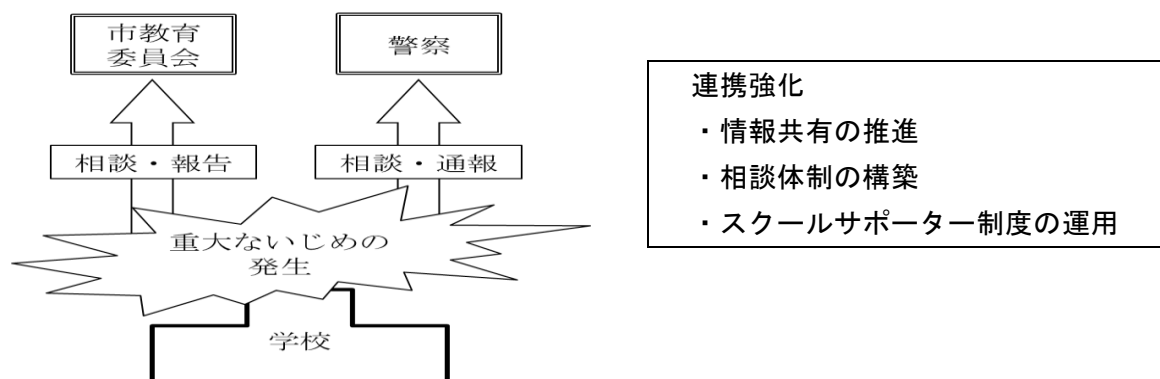
(2) 重大事態の対応についての留意事項

- ① 速やかに富山市教育委員会に報告し、市教育委員会の支援のもと、管理職が中心となり、学校全体で組織的に対応し、問題の解決に当たります。
- ② 学年又は学校の全ての保護者に説明するかどうかを判断し、当事者の同意を得た上で説明文書の配布や緊急保護者会の開催を行います。
- ③ 事案によっては、マスコミの対応も考えられるので対応の窓口を明確にして適切な対応に努めます。

5 重大ないじめ事案等における警察との連携について

(1) 警察との連携とは

- ・児童生徒の命や安全を守ることを最優先に、犯罪行為として取り扱われるべきいじめ等は、直ちに警察に相談・通報を行い、適切な援助を求めていきます。



(2) 被害児童生徒への支援及び加害児童生徒に対する指導・支援について

○ 被害児童生徒への支援

- ・被害児童生徒に対しては、当該児童生徒を徹底して守り抜くといった意識の下、適切なアセスメントを行い、二次的な問題の発生（被害の拡大等いじめの再発、不登校、自殺等）を防ぎ、心のケアを行います。

○ 加害児童生徒への指導・支援

- ・加害児童生徒に対しては、加害行為の背景や当該児童生徒が抱える課題について、適切なアセスメントを行いつつ、教育的配慮の下、毅然とした態度で指導・対応を行い、自らの行為を反省させる等、指導や適切な支援を行います。